

きらきら いきいき ふれあいプラン

かすみがうら市総合計画



後期基本計画
2012 ▶ 2016

概要版



かすみがうら市
KASUMIGAURA

かすみがうら市総合計画

後期基本計画の概要

シリーズ(全6回)で紹介します。

まちづくりの最上位計画

総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画で構成されており、市が各分野において策定する様々な計画の最上位に位置づけられる計画です。

基本構想

平成 19～28 年度

基本計画

前期

平成 19～23 年度

後期

平成 24～28 年度

実施計画

平成 19～21 年度

平成 20～22 年度

.....

平成 27～29 年度

平成 28～30 年度

※毎年度見直し

市政を総合的かつ計画的に進めていくために市の将来都市像を明らかにし、その実現に向けた施策の大綱を示すもので、基本計画や実施計画を策定するための基本指針となるものです。

基本構想の施策の大綱に基づいて、将来都市像を実現するために具体的施策を体系的に示すものです。

基本計画に基づいて、現実の社会情勢の変化に対応しながら、施策の優先度、緊急度、効果度を総合的に勘案して定めるものです。

策定の趣旨

霞ヶ浦町・千代田町合併協議会が策定した「新市建設計画」を踏まえつつ、平成19年3月に「総合計画」を策定し、計画的な行財政運営に取り組んできました。

しかし、世界的な経済情勢の大きなうねりを受け、わが国を取り巻く状況は厳しさを増しています。一方、高齢社会を迎える中での福祉施策、市民の価値観やニーズの多様化など、社会情勢の変化と相まって、新たな行政需要への対応が求められています。

「後期基本計画」は、本市が置かれている新たな状況と市民意識を十分に認識し、計画的かつ効率的な行財政運営を図ることを目的に、平成24年度から28年度までの5力年を計画期間として策定したものです。

問企画課 ☎ 内線 1563

重点プロジェクト

後期基本計画では、今後5年間に重点的・積極的に展開する3つの「重点プロジェクト」を設定しています。

設定にあたっては、将来都市像や基本理念を踏まえるとともに、前期基本計画の命題を継続することを前提としました。また、アンケートや座談会などを通じ、市民が感じているまちづくりに関する意見を集約し、計画策定の視点としました。さらに、先の大震災からの復興と今後の地震への対策を最重点項目としてとらえました。

数値目標を設定

総合計画は、個別の事業や施策から市が目標とする政策理念までがひとつにまとまった、総合的なまちづくりの方針です。そのため、基本理念に基づき将来都市像を実現していくために、各施策を計画的に推進していく必要があります。

このようことから、後期基本計画では、主な施策について、5年後を見通した「数値目標」を設定しました。具体的な数値目標の内容は、次回以降のシリーズの中で紹介します。

後期基本計画の策定の主な経過

平成22年

7月 まちづくり絵画・作文コンクール

8月 まちづくりアンケート

10月 まちづくり座談会

11月 中学生と高齢者の交流ワークショップ

平成23年

5月 施策指標作成作業

第1回総合計画審議会

7月 東日本大震災を踏まえた意識調査

重点プロジェクト案の検討

10月 第2回総合計画審議会(諮問)

市民の意見公募手続き
施策指標の見直し作業

11月 第3回総合計画審議会

平成24年

2月 第4回総合計画審議会(答申)

かすみがうら市総合計画(後期基本計画)の体系

基本構想(平成 19 ～ 28 年度)

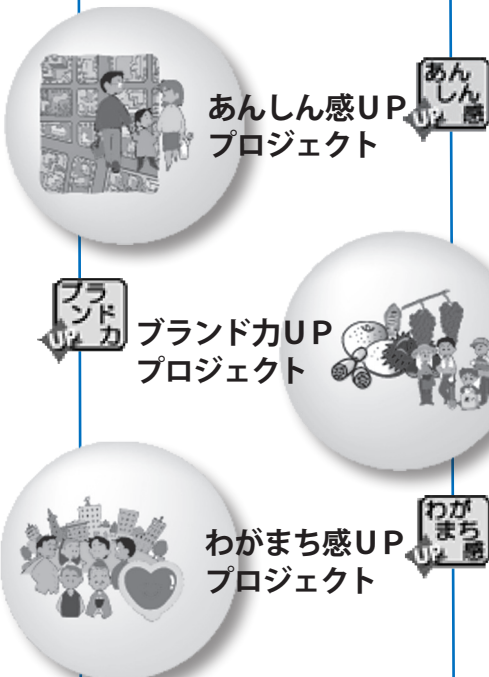
将来都市像 『きらきら いきいき ふれあい育む 豊かなめぐみ野』

- 基本理念
1. 豊かな自然を守り、生かした「ふるさと」と呼べるまちを目指して
 2. 交通利便性や地域資源を生かした「活力」ある元気なまちを目指して
 3. 各地域の持つ役割を大切に「個性と連携」のまちを目指して

後期基本計画(平成 24 ～ 28 年度)

重点プロジェクト

今後5年間に重点的
かつ積極的に展開



前期基本計画が施行されてきた中で、市民が感じ、
想ってきたまちづくりの方向性に関する意見を集約

1. まちづくりアンケート
2. まちづくり座談会
3. 中学生と高齢者の交流ワークショップ

後期基本計画策定の視点

- ◇地域総合力を高め、ニーズを引き寄せる
ー 首都圏の中で存在感を高める "かすみがうら"へー
- ◇都市成熟力を高め、暮らしやすさの満足度を高める
ー 時代が求める方向性に合わせ施策を最適化する
"かすみがうら"へー
- ◇市民協働力を高め、時代の荒波を協力して乗り越える
ー 市民・事業者・行政との連携が力を発揮する
"かすみがうら"へー

前期基本計画以降に必要度が高まった項目

- ・大震災の経験を踏まえた視点

前期基本計画から継続して必要な項目

- ・合併による一体化の推進

行政分野別計画

第1章 自然と調和した快適なまちづくり

- 第1節 適正な土地利用の推進
- 第2節 交通基盤の充実
- 第3節 快適な住環境の整備
- 第4節 循環型社会の形成
- 第5節 防犯・防災機能の充実

第2章 健やか・安心・思いやりのまちづくり

- 第1節 健康づくりの推進
- 第2節 高齢者福祉の充実
- 第3節 障害者福祉の充実
- 第4節 次世代育成の支援
- 第5節 地域福祉の推進

第3章 豊かな学びと創造のまちづくり

- 第1節 教育の充実
- 第2節 生涯学習の充実
- 第3節 青少年の健全育成
- 第4節 地域文化の継承と創造

第4章 活力ある産業を育てるまちづくり

- 第1節 農林業の振興
- 第2節 水産業の振興
- 第3節 商工業の振興
- 第4節 観光の振興

第5章 みんなでつくる連携と協働のまちづくり

- 第1節 市民活動の支援
- 第2節 男女共同参画の推進
- 第3節 広報・広聴活動の充実
- 第4節 行政サービスの向上

第1章 自然と調和した快適なまちづくり

策定の視点

▼豊かな自然と調和したバランスのある土地利用の展開

北西部の筑波山系の丘陵地を持つ千代田地域、小河川によって刻まれた起伏のある緩やかな台地や湖岸の低地によって形成される霞ヶ浦地域、それぞれの地域の持つ役割を大切にしながら、それぞれの良さを生かしたバランスのあるまちづくりが求められています。



△霞ヶ浦と筑波山系からなる自然景観

▼一体的な都市構造の構築に向けたＪＲ神立駅周辺整備

千代田地域と霞ヶ浦地域が接している箇所はわずかで、ＪＲ常磐線により分断されている状況です。ＪＲ神立駅周辺を中心とした拠点的土地利用を行い、市内各所を結ぶ交通ネットワークなどの検討を進め、一体的な都市構造を構築することが必要です。

▼本市の特徴である自然環境の保全・育成

首都にも近い非常に恵まれた交通立地条件を持ちながらも「豊かな自然環境」という部分が本市の特徴です。筑波山系と霞ヶ浦をはじめとした自然環境とそれに育まれた暮らしの営みを宝物として、将来にわたって保全していく必要があります。

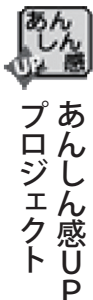
▼環境と共生する循環型社会を目指した環境にやさしいまちの創造

新エネルギーの導入などの新



△ＪＲ神立駅周辺は市街地の整備を推進

重点プロジェクト



あんしん感UP
プロジェクト

○市民の生活圏に対応するため、広域的な視点で道路体系

を確立

○主要な施設や地域間の連絡を円滑にする幹線道路を、計画的に整備

○歩行者などの安全性や快適性を向上させ、安心して通行できる道路環境を確保するため、地域の実情に合った道路整備

○デマンド型乗合タクシーなどの試行結果を踏まえ、身近に利用できる公共交通を充実

○ライフラインとして安全な水を安定供給できるように給水施設の整備充実

○災害や事故などに備え、水源や配水系統の接続により、給水の安定性を向上

○水供給の非常時対応の管理体制を強化

○火葬場の利用の推進を図るとともに、効率的な運営を促進。また、新斎場（石岡地方斎場組合）の建設を推進

○市民の健康への影響を防ぐため、放射線量の測定などを継続

○消防団施設の合理化や消防団員の確保

○消防の広域化と消防救急無線のデジタル化、消防指令業務の共同化を推進

○救命救急に関する隊員教育を

一層推進するとともに、高規格救急自動車の更新や救急救命士の育成を計画的に推進

○防災体制の指針となる地域防災計画の見直しなどを行い、防災力の強化を推進

○災害発生時、市内全域に迅速に情報を伝達するために、防災行政無線の充実や新たな伝達手段を検討

○土砂災害、水害時の浸水情報、避難情報などの防災情報を提供し、市民に対して防災への理解と意識の高揚を促進

○災害協定締結団体との連携を強化し、災害時の応援援助の内容の見直しと充実

○災害の際に応援や援助をしてくれる協力者との災害協定の締結を推進



ブランド力UP
プロジェクト

○ＪＲ神立駅周辺整備の進捗状況を考慮し、都市計画道路神立停車場線の整備を推進

○公共用水域の水質保全のため、高度処理型合併処理浄化槽の設置を推進

後期基本計画の全文は、市ホームページに掲載しています。
トップ↓行政↓まちづくり計画

第1章「自然と調和した快適なまちづくり」の体系と主な数値目標

第1節 適正な土地利用の推進

〔1〕土地利用

1. 計画的な土地利用の推進
2. 都市計画の推進
3. 中心市街地の整備
4. 地域の特性を生かした景観保全

第2節 交通基盤の充実

〔1〕道路・交通

1. 広域的な道路体系の確立
2. 幹線道路の整備
3. 生活に身近な道路の整備
4. 公共交通の充実

第3節 快適な住環境の整備

〔1〕上水道

1. 上水道の整備
2. 水道事業の健全化

〔2〕下水道

1. 下水道の整備

〔3〕河川

1. 安全な河川の整備
2. 親水性を高めた水辺環境の整備

〔4〕公園・緑地

1. 公園・緑地の整備

第4節 循環型社会の形成

〔1〕環境保全・公害

1. 環境保全
2. 環境美化の推進
3. 水質浄化の推進
4. 公害の防止

〔2〕廃棄物処理

1. ごみ、し尿処理の改善
2. リサイクルの推進

第5節 防犯・防災機能の充実

〔1〕消防・救急

1. 消防力の強化
2. 救急体制の充実

〔2〕防災

1. 防災対策・体制の充実
2. 防災情報体制の整備
3. 応援体制の整備

〔3〕交通安全・防犯

1. 交通安全対策の充実
2. 防犯対策の強化

指標	実績値	目標値	指標の考え方
	H22 年度末	H28 年度	
市街化区域内住宅 化率(%)	61	65	基礎調査における宅地化率が低いことから宅地化率向上を目標とする。
都市計画道路の整備 進捗率(%)	45	60	都市計画道路(神立停車場線)の全線整備に向け整備率を目標とする。
生活道路の改良延 長(m)	353,168	356,000	市民生活を支える生活道路の快適性、安全性の向上を目的とし、生活道路の改良を進める。
市が運営する公共 交通1日当たりの 利用者数(人)	58	85	市が運営する公共交通の乗降客数の増加を図る。
上水道有収率(%)	88.0	90.0	配水管の更新、漏水調査および漏水修理を行うことにより、水道事業経営指標(21年度)全国平均値90%を目標とする。
水道普及率(%)	93.3	95.0	水道配水管の新設および増口径化により、給水人口の増加を図る。
公共下水道整備率 (%)	83.19	84.72	累加整備面積/事業許可面積(農業集落排水は100%)
汚水処理人口普及率 (%)	83.31	83.95	(下水道処理人口+農業集落排水処理人口+合併浄化槽処理人口)/行政人口×100
市民一人当たりの 公園面積(m ² /人)	8.3	8.5	市民の憩いの場として、公園面積の拡大に努める。
市公共施設から発生 する二酸化炭素 年間排出量(t/年)	3,660	3,000	電気、ガス、燃料使用量を二酸化炭素排出量に換算した数値(小中学校などを含む)
霞ヶ浦清掃大作戦 年間参加者人数 (人/年)	11,541	12,500	霞ヶ浦周辺市町村が実施する清掃大作戦の参加者数を増加する。
主要河川BOD値の 改善達成割合(%)	84.6	100	市内の9河川13定点でのBODの国基準値2.0mg/l以下の達成割合
年間立ち入り検査、 指導件数(件/年)	43	50	公害苦情に対する発生源の究明、原因者への指導、再発防止策などの年間対応件数
市民一人1日当たり のごみの排出量 (g/日)	945	900	県のごみ処理計画の目標値949gと市の実績を踏まえ設定
ごみのリサイクル 率(%)	12	15	県のごみ処理計画の目標値23%と市の実績を踏まえ設定
消防水利の設置数 (箇所)	1,532	1,568	年間6か所の設置を目標に設置した数値
救急救命士の数 (人)	15	24	3台の救急車を高度利用するための救急救命士の養成目標。
救急講習受講者累 計人数(人)	1,733	5,000	消防本部が行う救命講習会の受講人数年間540人を目標とする。
防災訓練参加者人 数(人)	600	4,000	実績値は単年度、目標値は24～28年度の合計。単年度800人を目標値に設定。
防災無線の故障件 数(件)	2	0	定期点検の着実な実施により故障を防ぎ、災害に備える。
災害協定の締結数 (団体)	5	20	災害時の応急対応を着実に進めるため、企業や協力団体との災害協定を推進する。
交通死亡事故件数 (件/年)	7	0	市内で発生した死亡事故件数0件を目指す。
防犯灯の設置補助 (灯)	60	300	行政区が設置する防犯灯の数(実績値は単年度、目標値は24～28年度の合計)

第2章 健やか・安心・思いやりのまちづくり

問企画課内線 1563

策定の視点

▼高齢者が安心して暮らすことのできる福祉の環境づくり

全国的な規模で高齢化が進む中、本市においても高齢者人口の増加に伴い、介護や支援を必要とする高齢者も増加することが予想されます。高齢者が住み慣れた地域や家庭で、社会の一員として生きがいを持って安心して暮らすことができる地域づくりを、市民と行政が連携しながら構築していく必要があります。



△敬老式典でシルバーリハビリ体操(平成23年度)



△子育てサロンの七夕まつり(やまゆり館)

▼安心して子育てができる地域づくり

市街地では子育て世代の転入に伴う子育て環境の充実のニーズが高まっています。保育所、幼稚園、学校、職場、地域社会などが、それぞれの養育機能を充実し、相互に連携しながら、子育てに安心感が持てる環境づくりに取り組むことが急務の課題となっています。

▼医療環境の整った地域づくり

市民が安心して医療が受けられるよう、地域医療体制や救急医療体制の充実が望まれています。

す。そのため、拠点病院が立地する土浦市なども含めた広域的な地域の中で市民が医療を受けることができる環境の充実が必要となっています。



△地区健診で市民の健康管理を支援

重点プロジェクト

あんしん感UP
プロジェクト

○医療福祉制度の周知に努めるとともに乳幼児などに対する助成の充実を検討

○障害者が自立した生活が送れるよう地域生活支援体制を強化

作文コンクール作品《市長賞》

後期基本計画策定にあたり平成22年度に実施した作文コンクールの入賞作品を紹介します。
今回は、新治小学校6年生(当時)の作品を紹介します。

「私がかすみがうら市長になったら」

私がかすみがうら市長になったら、無駄なお金をけずりたいと思います。地域の人たちの税金を使って次のようなことをしていきたいと思っています。

第一に、お年寄りや子供のために人に優しいまちづくりです。なぜなら、かすみがうら市には大きな病院が無く、となりの土浦市や石岡市に行っています。市内に病院があれば急に具合が悪くなった時やけがをした時などにすぐにかかれるからです。それと病院のたらい回しを無くすこともできると思います。受け入れてくれる病院を増やし死者を少しでも減らすことができるばいいと思います。

第二に、環境づくりです。かすみがうらは農業がさかんです。でもそれを手伝う若い人が少ないことが問題です。農業は畑を耕したり、手入れをして出荷したりとても大変な仕事ですが、喜びも多い仕事です。若い人に魅力を持ってもらうように農業の街がかすみがうら市をアピールしていきたいです。地産地消も積極的に進めていきたいです。そして、教育にも力を入れます。自ら学校へ行き、生徒の目線に立ち一緒にいろいろ考えていきたいと思っています。最近、荒れている学校が多いので、授業態度などを観察し、良いところがあったら見習って他の学校に役立てたいです。荒れている学校では、生徒と一緒に考え、荒れている原因をさがします。荒れているのは、生徒自身がつらい思いをしているからだと思います。

そして、笑顔のあふれる自然豊かなかすみがうら市を作るために森林を学校などに増やしたいです。生徒達に森林の大切さを学んでもらい、木とふれ合ってほしいです。私の学校では、間伐材を使って遊具やコルクなど色々な物を作ったり、学校の活動で厚生労働大臣から表彰を受けました。なので森林の大切さを伝えていきたいです。私がかすみがうら市長になったら、このようなことをしたいと思っています。

○公立保育所の民営化を推進し、補助金や民間資本などを活用した施設整備を推進

後期基本計画の全文は、市ホームページに掲載しています。
トップ↓行政↓まちづくり計画

第2章「健やか・安心・思いやりのまちづくり」の体系と主な数値目標

第1節 健康づくりの推進

- 〔1〕保健・医療
 - 1. 保健の充実
 - 2. 健康増進
 - 3. 医療体制の強化
- 〔2〕国民健康保険
 - 1. 医療費適正化と保険財政の健全化
 - 2. 高齢者医療制度の充実
 - 3. 医療福祉制度の充実

第2節 高齢者福祉の充実

- 〔1〕高齢者福祉
 - 1. 福祉施設などとの連携体制の強化
 - 2. 高齢者の安全な環境の整備
 - 3. 社会参加活動の促進
- 〔2〕介護保険
 - 1. サービス提供体制の充実
 - 2. 地域包括支援体制の整備
 - 3. 質的向上の推進
 - 4. 相談・支援体制の充実

第3節 障害者福祉の充実

- 〔1〕障害者福祉
 - 1. 障害者自立支援の推進
 - 2. 障害者の社会参加の推進

第4節 次世代育成の支援

- 〔1〕児童福祉
 - 1. 保育サービスの充実
 - 2. 子育て支援の充実
 - 3. 児童福祉施設の整備充実
 - 4. 児童の健全育成

第5節 地域福祉の推進

- 〔1〕地域福祉
 - 1. 地域福祉意識の高揚
 - 2. 地域福祉施設の充実
 - 3. 福祉団体の育成
- 〔2〕ひとり親家庭福祉
 - 1. ひとり親家庭福祉
- 〔3〕低所得者福祉
 - 1. 適正保護と自立支援の推進
- 〔4〕国民年金
 - 1. 加入と納付の促進

指標	実績値	目標値	指標の考え方
	H22 年度末	H28 年度	
特定検診の受診率(%)	32.9	40.0	国の目標値 50%と市の実績を踏まえ設定(受診者数 / 対象者数)
健康教室の参加者数(人/年)	1,161	1,300	健康教室への参加を推進し、健康への意識を高める。
国民健康保険税の収納率(%)	現年度 88.45 滞納分 16.65	現年度 91.00 滞納分 20.00	22 年度県の目標値現年度 89%と市の実績を踏まえ設定(国保税収納額 / 国保税調定額)
後期高齢者健康診査の受診率(%)	20.96	23.00	22 年度県の平均値 15.34%と市の実績を踏まえ設定(後期高齢者健康診査受診者数 / 健康診査対象者数)
小児受給者証の交付率(%)	83.3	85.0	市の実績を踏まえた努力目標を設定(受給者証交付者数 / 受給対象者数)※非該当者含む
各種生活支援サービスの利用者数(人/年)	567	600	「食」の自立支援事業、緊急通報装置設置事業、福祉タクシーなどの実績を踏まえ努力目標を設定
自立高齢者の割合(%)	86	87	自立高齢者の減少傾向の中の努力目標
単位老人クラブ数(団体)	25	30	社会奉仕、生きがいづくり、介護予防などの活動のさらなる拡大に努める。
介護保険サービスの利用率(%)	87	92	介護保険サービスを多くの市民に利用してもらうための努力目標
訪問系・日中活動系サービスなどの利用人数(人/年)	114	153	訪問系サービス及び日中活動系サービスなどの提供数を毎年 5% 上乗せした目標値
就労支援の延べ利用人数(人/年)	29	35	実績を踏まえた各種就労支援延べ利用人数の努力目標値を設定
市内公立、私立保育所(7 か所)での一時保育延べ実施日数(日/年)	944	980	実績を踏まえた努力目標を設定し、安心した子育て体制を支援
チャイルドシートなどの貸出(台)	16	100	貸出用チャイルドシートの保有台数の増加を見込んだ目標設定
公立保育所の民営化数(所)	2	4	民営化を目指す公立保育所の数
児童館来館者数(人)	67,572	71,000	多様なニーズへの対応や特色のある運営を推進し、来館者数の増加を目標に設定
民生委員・児童委員数(人)	87	90	担当エリアの再編及び市街地周辺への増員により福祉行政のさらなる推進を図る。
民生委員・児童委員定例研修会の開催回数(回/年)	11	11	定期的に研修会を実施し、必要な知識、技術を習得することにより、地域活動の充実を図る。
あじさい館内福祉館の利用者数(人/年)	71,602	72,700	実績を踏まえ毎月 15 人程度の増加を目標に設定
やまゆり館の利用者数(人/年)	47,131	52,000	実績を踏まえ 1 年間に概ね 1,000 人程度の増加を目標に設定
ボランティア団体数及び会員数(団体・人)	団体数 20 会員数 38	団体数 23 会員数 60	ボランティア団体数及び会員数の実績を踏まえ目標値を設定
ボランティア養成講座数(講座/年)	3	4	ボランティアの養成を図るため講座開催回数を増やす。
児童扶養手当の受給者数(人/年)	337	370	実績を踏まえ、児童扶養手当の受給者数の増加を見込む。
年金情報の「広報かすみがうら」への掲載回数(回/年)	12	12	国民年金制度の普及・啓発事業として、国民年金情報を市の広報紙に毎月掲載

第3章 豊かな学びと創造のまちづくり

問企画課内線 1563

策定の視点

▼豊かな心を育て、子どもたちの学ぶ環境の充実

アンケートやヒアリングなどにおいて、「次代を担う子どもたちが心豊かに成長できるように、その環境を整えていくことが重要だ。」という意見も多く聞かれました。校区の再編の問題などを解決しながら、市民ニーズを的確に把握し、将来を担う子どもたちの教育環境の充実を図っていく必要があります。

▼市民が融和しニーズに適した生涯学習の場の提供

合併後、様々な文化・芸術などの市民活動団体の一体化が進んでいきます。しかし、施設の利便性が損なわれていたり老朽化の問題があるなど様々な課題を持っています。これらの課題を解決しながら、市民ニーズに即した学習機会の提供に努めていく必要があります。

重点プロジェクト

あんしん感UPプロジェクト

○学校の適正規模と適正配置の計画と整合性を図りながら、耐震性能が劣る施設を耐震化
○児童生徒数の減少に伴い、教育環境を改善するため学校の統廃合を推進

ブランド力UPプロジェクト

○市や団体が刊行した歴史書、文化に関する映像などを歴史ライブラリーとして整備設置し、市民や来訪者への貸し出し提供

わがまち感UPプロジェクト

○市民が快適に利用できるよう、公民館、図書館などの生涯学習施設の適切な維持管理



△耐震化と増築工事が進む下稻吉小学校

に努め、施設、設備を整備充実

○既存スポーツ施設を連携し効果的かつ効率的な活用を図り、様々なスポーツの需要に対応

○青少年の健全な育成を図るため、地域活動における指導者の養成に努め、活動団体の連携のもと組織を強化

後期基本計画の全文は、市ホームページに掲載しています。
トップ↓行政↓まちづくり計画

作文コンクール作品《教育長賞》

後期基本計画策定にあたり平成22年度に実施した作文コンクールの入賞作品を紹介します。
今回は、千代田中学校3年生(当時)の作品を紹介します。

「未来のかすみがうら市」

私 は4才のころ、この土地に引っ越して来た。生まれたのは別の町で、日中は祖父母のいる、また別の町で生活していた。それぞれに、どの町にも良い所がたくさんあって好きだが、今は十年以上暮らしているのかすみがうら市が一番好きだ。緑が多く、癒されるというか、落ちつくという感じだ。私は、かすみがうら市のよさはそこだと思っている。

千代田地区は、栗の栽培が盛んで、その後、梨やぶどう、柿などの栽培が行われた。霞ヶ浦地区は、れんこんなど霞ヶ浦の水を利用した産業が盛んだと聞いたことがある。私の家も観光果樹園だが、東京方面から来るお客様は、かすみがうら市と言えばおいしい果物として、ゆっくりできて落ちつける場所と言った人がほとんどだが、やっぱり未来のかすみがうら市も、この良い点は継続し、住みよく、楽しい所に発展していくてほしいと思う。

そして数十年前には、霞ヶ浦で泳ぐことができたということは、近くの町と協力し、まずは、霞ヶ浦がきれいになり泳げる湖になってほしいと私は思う。そしてその上に対岸の町から霞ヶ浦地区に橋をかけ、圏央道や成田空港、茨城空港などと繋がれば、多くの人々がかすみがうら市に訪れて活気のある市になると思う。かすみがうら市全体がテーマパークのようになっていて、中央には、東京スカイツリーより大きな、タワーができるのだ。かすみがうら市は、霞ヶ浦の水を中心とした、大きなテーマパーク、そして千代田地区は、霞ヶ浦の産物やそれを使ったおいしい料理を食べられる店と温泉ができる。そういった宿泊できる店などを建てるのもっとよくなると思う。

とても豊かで楽しい場所になりそうだが、そのためには、今のかすみがうら市の環境を守り、そして今以上に、霞ヶ浦をきれいにしなければならぬのだ。未来のためにも、一人一人が環境を守る努力をし、暮らしていくことが大切だと思った。

第3章「豊かな学びと創造のまちづくり」の体系と主な数値目標

第1節 教育の充実

- 〔1〕幼児教育
 - 1. 幼児教育の推進
- 〔2〕学校教育
 - 1. 教育環境の充実
 - 2. 教育内容の向上
 - 3. 教育相談の充実
 - 4. 特色ある学校づくり
 - 5. 地域・家庭教育との連携

第2節 生涯学習の充実

- 〔1〕生涯学習
 - 1. 生涯学習推進体制の確立
 - 2. 生涯学習機会の提供と生涯学習団体への支援
 - 3. 生涯学習施設の整備充実
 - 4. 生涯学習情報の提供
 - 5. 地区公民館活動と地域活性化運動
 - 6. スポーツ・レクリエーション活動の推進
 - 7. スポーツ・レクリエーション施設の利用促進
 - 8. スポーツレクリエーション団体の育成



△今年で8回目となった生涯学習フェスティバル

第3節 青少年の健全育成

- 〔1〕青少年育成
 - 1. 青少年健全育成活動の促進
 - 2. 青少年の健全育成と体制の整備

第4節 地域文化の継承と創造

- 〔1〕地域文化
 - 1. 文化財などの継承と保護、活用
 - 2. ふるさと教育の推進
 - 3. 芸術・文化活動の推進
 - 4. 観光との連携
- 〔2〕国際交流
 - 1. 国際理解と国際交流の推進

指標	実績値	目標値	指標の考え方
	H22 年度末	H28 年度	
幼稚園就園児童数(人)	372	400	実績を踏まえ、幼稚園就園児童数の目標値を設定(実績値、目標値ともに市外の幼稚園も含む)
学校図書充足率 75%以上の学校の割合(%)	82.3	100	読書活動を活性化するため蔵書の充実を図り、全校達成を目指す。
学校施設の耐震化率(%)	65	76	下稲吉小、下稲吉東小の2校の耐震化工事を上乗せした目標値
指導主事の配置人数(人)	3	3	教員の資質向上や指導力強化のため、今後も3名の継続配置を推進
特色ある学校づくりに取り組む学校の割合(%)	100	100	地域交流の維持継続及び活性化を図り、地域を含めた児童生徒の育みを広げていく。
家庭教育学級の受講者延べ人数(人)	4,392	4,500	対象者である小中学校1年生の保護者の参加人数の実績を踏まえ設定
社会教育委員会の年間開催回数(回/年)	1	2	会議の開催回数を増やすことで生涯学習体制の整備を図る。
公民館講座の年間受講者数(人/年)	1,919	2,000	各種講座の受講者数について実績を踏まえ設定
ブックスタートの年間開催回数(回/年)	12	12	4ヶ月検診の際に乳児とその保護者を対象に読書の普及活動を実施する。
図書資料の年間貸出冊数(冊)	81,161	86,000	幅広い年齢層の要望に応えられるよう、図書資料などの充実を図り、貸出冊数の増加を目指す。
DVD など資料の年間閲覧回数(回/年)	2,181	2,700	館内の視聴覚コーナーでのDVDなどの閲覧回数を概ね年100回の増加を目指す。
人材バンク年間紹介件数(件/年)	17	25	紹介件数を増やし、登録者の増加につなげていく。
各種事業への年間参加者数(人/年)	6,501	7,000	各種事業への参加者数について、実績を踏まえて設定
生涯スポーツに取り組む市民の延べ人数(人/年)	86,607	110,000	体育協会、総合型スポーツクラブなどに加入し、市の体育施設等でスポーツを行っている市民の実績数を踏まえて設定
体育施設の年間利用者数(人/年)	97,908	130,000	市内4か所の体育施設の年間利用者数の実績を踏まえて設定
市長杯大会の年間参加団体数(団体/年)	174	200	体育協会加盟団体の市長杯大会の参加団体数の実績を踏まえて設定
市民学芸員数(人)	31	60	養成講座を継続して実施し、市民学芸員数を増やす。
郷土資料館の講座、教室などの参加者数(人/年)	1,006	1,200	歴史や文化財に関する講座を増やし、参加者増につなげる。
文化協会祭への参加団体数(団体/年)	32	45	文化協会加盟団体の文化協会祭への参加率向上(80%)を目指す。
中学生海外派遣人数(人/年)	30	30	国際感覚を養い、国際理解を深め、グローバル社会に対応する人材を育成するため、事業を継続する。
国際交流事業への参加者数(人/年)	1	4	国際交流事業への参加者数の増加を目指し、過去の実績から設定

第4章 活力ある産業を育てるまちづくり

問企画課内線 1563

策定の視点

▼着実な発展を支える農業や商業、工業などの産業の育成と充実

本市の基盤を支えてきた農林漁業や工業、商業などの産業をさらに活力あるものとするために、それぞれの産業に適した「まちづくり」を行うことが必要です。優良企業の誘致や事業所の支援などによる工業の振興、農業の経営安定化や後継者不足への対応などによる農業の振興、JR神立駅周辺や幹線道路沿いの環境整備による商業の振興など、きめ細かな振興策を展開していく必要があります。

▼地域の特徴を生かした独自の産業育成

都心からのアクセスにも恵まれ、自然豊かな環境を持つ本市の特徴を生かした産業を育成充実させていくことが求められています。そのため、特産品の

ブランド化や体験型の観光の拡大、水と緑に囲まれた豊富な地域資源を活用した新たな観光資源の掘り起こしなど、基幹産業と観光が連携した独自のまちづくりを展開しながら、「かすみがうら」としての個性を打ち出していくことが必要です。



△本格やきいも焼酎「湖山(こざん)」

重点プロジェクト



ブランドUPプロジェクト

○農地については、計画的な利用調整や担い手への利用集積に向け、県営事業や団体営事業などの補助事業を中心に、

圃場整備やかんがい排水整備などを促進

○土地改良区や水利組合については、維持管理への支援や組織の一本化などによる事務効率の向上に努め、生産性の高い農業経営の実現、生産力の維持向上を目指す

○国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、文化の伝承といった多面的機能を有する農業資源の保全活動を地域ぐるみで支援

○水田と畑作については、安定した経営が図れるよう国や県、関係機関との連携を強化し所得の安定対策に取り組む

○減農薬、減化学肥料米の普及を図り、販売までも視野に入れた、特色のある米産地化に向けた支援と育成

○担い手育成支援事業のさらなる推進のため、関係機関や団体との連携強化

いくとともに、経営の法人化に向けた取組みを強化

○認定農業者に対して、担い手経営安定化対策や融資制度、補助制度など認定農業者として有利な各種支援策を周知し、活用促進

○新規就農希望者に対する農地の確保など就農関連情報の提供や就農相談活動体制を整備

○市、JA、農業改良普及センターなどを中心に認定農業者など担い手を確保

○優良農地の保全を図るとともに、遊休農地解消と利用推進への取組みを強化するため、各種啓発活動を実施

○効率的かつ安定的な経営を目指す土地利用型農家に、耕作放棄地の解消とともに農地の集積を促進し、規模を拡大

○地域農業の活性化を図り銘柄産地など産地化を支援するとともに、ブルーベリーやイチジクなどの新作物の普及促進に向けた事業を支援

○農作物の販売体制の確立を支援

○商業地域及び幹線道路沿いに新たな商業施設を誘致促進

○立地の特性を生かし、神立駅西口地区土地区画整理事業を推進しながら、商業地域を活

性化

○地域資源を活用した新商品の開発を積極的に促進し、「湖山の宝」推奨商品の拡大と普及

○市民交流の場に地元企業や生産者の出展を促し、地場産品に対する理解を深めながら地産地消を推進



△かすみがうら祭の目玉「四万騎鍋」



わがまち感UPプロジェクト

○既存立地企業のパフォーマンスと新たな企業の誘致に関する優遇措置などの情報を広く発信し、企業誘致の促進

後期基本計画の全文は、市ホームページに掲載しています。
トップ↓行政↓まちづくり計画

第4章「活力ある産業を育てるまちづくり」の体系と主な数値目標

第1節 農林業の振興

〔1〕農林業

1. 農業経営確立の推進
2. 担い手農家の育成と後継者の確保
3. 農地流動化の推進
4. 農業環境の活性化
5. 畜産の振興
6. 林業の振興

第2節 水産業の振興

〔1〕水産業

1. 資源の保護と養殖漁業の振興
2. 水産加工品の販路拡大
3. 水産業の多面的機能の活用

第3節 商工業の振興

〔1〕商工業

1. 商業環境の活性化
2. 工業の振興
3. ふるさと商品づくり
4. 起業化の支援
5. 就労環境の整備

〔2〕消費生活

1. 消費者支援の促進
2. 消費者意識の啓発と団体の育成

第4節 観光の振興

〔1〕観光

1. 観光拠点の整備
2. 観光資源の活用
3. 観光の推進体制とPRの充実
4. 広域観光基盤の整備

指標	実績値	目標値	指標の考え方
	H22 年度末	H28 年度	
飼料用米作付面積(ha)	0	42	新規事業として努力目標値を設定
市内の認定農業者数(人)	151	163	年間2人程度の認定農業者の増加を目指す。
耕作放棄地解消面積(ha)	6	42	実績値は21～22年度の、目標値は実績を踏まえた21～28年度の累計面積
エコファーマーの人数(人)	189	200	実績を踏まえ、エコファーマーの増加を図る。
家畜伝染病発生件数(件)	0	0	家畜伝染病予防のため、予防接種、検査などを徹底する。
造林事業年間整備面積(ha/年)	0.3	1.0	造林から保育に至る一貫した森林資源の造成整備を推進する。
年間漁獲高(t/年)	433	450	漁協組合員の漁獲高の増加を目標とする。
水産加工品のイベントなどへの年間出店回数(回/年)	8	10	水産加工団体のイベントへの出店回数の増加を目指す。
帆引き船見学用随伴船年間乗船者数(人/年)	440	500	実績を踏まえ、帆引き船随伴船乗船者数の増加を図る。
中小企業の年間相談件数(件/年)	1,938	2,500	商工会と連携し、経営診断や経営指導などの相談件数の増加を目指す。
工業団地内における年間訪問件数(件/年)	3	6	立地企業に情報を提供して、安心できる経営環境づくりを進めるため、訪問件数を増やす。
「湖山の宝」推奨品の認定数(件)	6	20	地場産品開発を啓発し、市ブランド化推進会議が認定する「湖山の宝」推奨品数の増加を図る。
求人情報の年間閲覧者数(人/年)	0	30	新たにハローワークなどと連携して、未就労者に最新の就業情報を提供する。
消費者の年間相談件数(件/年)	285	300	消費者生活センターのPRに努め、実績を踏まえ相談件数の増加を図る。
年間入込観光客数(人/年)	266,100	270,000	主要観光施設のさらなる充実を図り、集客力の向上に努める。
観光イベント年間開催回数(回/年)	6	8	観光協会などが関与するイベントの年間開催回数を増やし、観光資源の活用を促進する。
都市交流活動の年間実施回数(回/年)	8	15	板橋区などとの都市交流事業に積極的に参加し、PRに努める。



市が誇る産物観光資源などを象徴する『湖山の宝』に、下記の14品の推奨品が認定されています。



本格やきいも焼酎「湖山」・ブルーベリーリキュール「霞恋」・太陽のめぐみ「サンマロン」・霞ヶ浦帆引き船模型・海老れんこん佃煮・霞ヶ浦フィッシュ&チップス・豆おかき・紅あずまチップス・栗甘納糖・三色甘納糖・落花生甘納糖・ブルーベリーガレット・ピーナッツガレット・落花生おこげ

推奨品は、市内の取扱店などでお買い求めいただけます。
詳しくは、well done!「湖山」ホームページをご覧ください。
<http://www.kozannotakara.com/>

第5章 みんなでつくる連携と協働のまちづくり

問企画課内線 1563

策定の視点

▼市民参加と協働のまちづくりに向けた体制の構築

地域のコミュニティ活動や様々なまちづくり活動などの高まりに伴い、市民やNPO、ボランティア、事業者などの参加による協働のまちづくりが進展してきています。今後は、まちづくりに協力できる人材育成を図りながら、協働と参画によるまちづくりの推進に対応するシステムの確立を図る必要があります。

▼自治体としての執行体制の強化と持続可能な自治体運営

景気の動向や国、県の制度改正、地方分権などの影響を受けて、財政的にも厳しい状況が経常的なものとなりつつあります。そのため、行政評価システムの推進、組織や機構の見直し、職員数の適正化、職員の能力開発など、強力に行財政改革に取

り組み、限られた財源を重点的かつ効果的に配分しながら、健全な財政運営を図っていくことが重要です。

重点プロジェクト



わがまち感UPプロジェクト

○市民との対話の機会など、市民と行政とのコミュニケーションを円滑化
○意見公募手続など、公正の確保と透明性の向上を踏まえ、各分野の施策に市民の意見を反映

○各種委員会や協議会への市民の参加機会を拡大
○地域振興グループの助成など、市民や事業者がまちづくりに参加しやすい環境づくりを推進
○市民公益活動団体の活性化に向けて、市民活動情報を集約

し、提供する仕組みを検討

○本市出身者や市にゆかりのある人たちなどを登録する「ふるさと市民」の定着と拡大

○各分野で活躍する市外在住者に「ふるさと大使」を委嘱し、連携によるまちづくりを推進

○行政改革大綱に基づき、事業や行政組織の見直し、民間委託の推進などにより計画的な定員管理

○市町村合併については、国の動向や県が示す将来目指すべき合併パターンを踏まえながら、周辺市町村との関係を構築

○行政評価を活用して事務事業の効率化を図りながら、総合計画の進行管理と連動した予算編成

○市民からの提案型事業の活用を図るなど市民ニーズに応じた優先化、重点化した財源配分を実施

○行政経営の視点から、財政指

作文コンクール作品 《教育長賞》

後期基本計画策定にあたり平成22年度に実施した作文コンクールの入賞作品を紹介します。

今回は、上佐谷小学校4年生(当時)の作品を紹介します。

「未来のかすみがうら市」

私

は、かすみがうら市が大好きです。その理由は、四つあります。一つ目は、かすみが浦です。日本で一番目に大きいかすみが浦はかすみがうら市の自まんの湖だからです。二つ目は果物や野菜がおいしい事です。おいしい物がたくさんあることはとてもうれしく思います。三つ目は自然が多い事です。私が住んでいる上佐谷は雪入山や浅間山などに囲まれています。自然から四季のすばらしさが伝わってきます。四つ目は、地域の人達がみんな、やさしい事です。あいさつをすることが好きになったり安心して学校に通えます。

この四つの事は、かすみがうら市の人達や市外のたくさんの人達に知ってほしいと感じています。それには、みんなで力を合わせて考えていく事が大切だと思います。まず、私も考えてみました。私は、家族で登山やサイクリング、キャンプなどに出かけることがとても楽しみです。そして、その地域の特産品を母と買い物をするのが好きです。かすみが浦の湖岸をサイクリングしたり、船のつたりおいしい特産品をみんなに食べてもらえたらいいなと思いました。かすみがうら市の自然の中ですばらしい思い出を作ってほしいです。だから地域の人も、色々な季節のかすみがうら市を知ってほしいと思いました。

最後に困っている人が少ないかすみがうら市になってほしいです。住んでいる人も、働いている人も、笑顔を忘れずに暮らしていけたらいいなと思いました。どうしたら、その願いがかなうか私はまだ考えつきませんが、これから、色々な勉強をする中で、少しずつ考えていきたいと思っています。そして、私の住んでいる上佐谷に来ておいしい果物を食べてみてください。

標や財務諸表に基づく分析を踏まえ、事業の優先順位の設定や負担とサービスの適正化

後期基本計画の全文は、市ホームページに掲載しています。
トップ↓行政↓まちづくり計画

第5章「みんなでつくる連携と協働のまちづくり」の体系と主な数値目標

第1節 市民活動の支援

- 〔1〕コミュニティづくり
 - 1. コミュニティ活動の推進
 - 2. コミュニティ施設の整備
- 〔2〕協働体制
 - 1. 市民参加のまちづくり
 - 2. ふるさと支援者を生かしたまちづくり

第2節 男女共同参画の推進

- 〔1〕男女共同参画社会
 - 1. 市民意識の啓発
 - 2. 社会参画への支援

第3節 広報・広聴活動の充実

- 〔1〕広報・広聴
 - 1. 広報活動の推進
 - 2. 広聴活動の充実

第4節 行政サービスの向上

- 〔1〕行政運営
 - 1. 行政改革の推進
 - 2. 情報システムの整備
 - 3. 窓口サービスの向上
 - 4. 広域行政の推進
 - 5. 総合計画の進行管理
- 〔2〕財政運営
 - 1. 計画的・効率的な財政運営
 - 2. 財源の確保
 - 3. 経費の節減

指標	実績値	目標値	指標の考え方
	H22 年度末	H28 年度	
市集落センター連絡協議会への加入団体数(団体)	27	33	ふるさとづくりを推進するため、様々な地域づくり活動を展開し、加入団体の増加を目指す。
行政区への加入割合(%)	72.8	75.0	区長会と連携し、行政区に加入している世帯割合を増やす。
市民懇談会の開催(回/年)	1	1	市民懇談会を毎年開催する。
ふるさと大使の委嘱者数(人)	6	50	市の活性化に協力する「ふるさと大使」の増加を目指す。
男女共同参画社会啓発事業への参加者数(人/年)	74	81	講演会や啓発事業などへの参加者数の増加を目指す。
ホームページのアクセス数(件/年)	172,109	189,000	ホームページのアクセス数の増加を目指す。
市民提案件数(件/年)	12	15	市民提案件数の増加を目指し、過去の実績から設定した。
第2次行政改革大綱及び実施計画の達成項目の割合(%)	48.27	100	計画期間中に目標達成100%を目指す。
公共施設予約システム利用者数(人/年)	5,593	7,000	スポーツ施設予約システムの活用を促進し、利用者数の増加を実績から設定した。
照明や冷暖房の節電による経費削減額(円/年)	-	200,000	地球温暖化防止及び東日本大震災以降の電力不足に対応するため、経費の削減を図る。

絵画コンクール作品

テーマ；未来のかすみがうら市

後期基本計画策定にあたり平成22年度に実施した絵画コンクールの入賞作品を紹介します。



《市長賞》 △七会小学校5年生(当時)の作品



《教育長賞》

◁七会小学校
4年生(当時)の作品



《教育長賞》

◁上佐谷小学校
6年生(当時)の作品



この概要版は、「広報かすみがうら」に
シリーズ連載した記事を抜粋したものです。

かすみがうら市総合計画 後期基本計画の概要
(平成 24 年 8 月号／No.89)

第 1 章 自然と調和した快適なまちづくり
(平成 24 年 9 月号／No.90)

第 2 章 健やか・安心・思いやりのまちづくり
(平成 24 年 10 月号／No.91)

第 3 章 豊かな学びと創造のまちづくり
(平成 24 年 11 月号／No.92)

第 4 章 活力ある産業を育てるまちづくり
(平成 24 年 12 月号／No.93)

第 5 章 みんなでつくる連携と協働のまちづくり
(平成 25 年 1 月号／No.94)
